

## 笑顔で対話

令和7年12月

羽島市教育委員会

## 体験を通して地域を学ぶ ～ ふるさと教育の推進 ～

羽島市では、こどもたちが身の回りの自然や文化、歴史、人の思いに触れながら、自分たちの住む地域に誇りと愛着をもつ学びを進めています。身近な人たちとの交流を通して、ふるさととのよさを再発見し、地域の一員としての自覚を育てようと考えています。

自分たちも役に立った  
授業とつながった米作り（足近小）

5年生は、地域の方に助けていただきながら、米づくりに取り組んでいます。10月には、鎌の使い方や稲の束ね方等のアドバイスを受け、稲刈り体験をしました。こどもたちにとって、社会の学習と地域を結び付ける貴重な時間でした。

今回収穫したお米は、12月の足近フェスティバルで、赤飯として地域の方に振舞われました。自分たちが関わったお米がフェスティバルに使われたことで、自分たちも地域の役に立ったという意識が生まれました。また、地域とつながる大切な取組となりました。



## 体験を終えた、こどもの感想

加藤 優奈 さん

「毎日当たり前前に食べているお米は、たくさんの手間と時間をかけて育てていることが分かった。地域の方のおかげでこんなに素敵な体験ができました。」

野田 沙耶 さん

「米作りは、いつも見る景色の一つ。私たちが育てたお米をフェスティバルで地域の方に食べてもらえることがうれしいです。」

## 地域のネットワークを広げる 健康ウォーク(竹鼻小)



11月、竹鼻コミュニティセンター主催の「竹鼻町健康ウォーク」に3年生児童が保護者と一緒に参加しました。3年生は、総合的な学習の時間で「地域」をテーマに学習を進めています。その一環として、親子で校区内の史跡や文化財を巡り、地域の魅力に触れていきます。ボランティアの案内役の方からの説明に耳を傾けながら、普段何気なく通っている場所の歴史や文化を学び、見える景色が変わったようです。参加した保護者の方からは、「住んでいても知らないことが多く、新しい発見がたくさんありました」や「こどもと歴史を語りながら歩くことが新鮮。楽しい時間を過ごせました」という声が聞かれました。地域と学校が一体となってこどもの学びを深めるとともに、地域のネットワークが広がる素敵な時間となりました。

国は、12月4日から10日までを「人権週間」とし、人権について考え大切にしようとする活動を展開しています。羽島市でも、互いを尊重し、多様な価値観を認め合う児童生徒の育成を市の重点として取り組んでいます。今回はその取組の一例を紹介します。

#### この取組を地域や家庭に ピンクシャツデー(桑原学園)

桑原学園の「ピンクシャツデー」は、毎月最終の水曜日に実施されています。この日は、いじめ防止の意思を表すために、こどもたちはピンク色のものを身に着けたり、持参したりして登校します。そして、朝の放送で、生徒会執行部がメッセージを発信しています。それをもとに、各学級で話し合いを行うこともあります。こうしたことが、いじめだけでなく、広く人権について考えるきっかけになっています。9年生の学園生会長は「この取組の意義や意味が家族や地域の人にも広がっていくと嬉しいです」と話しています。



ピンクシャツデーとは、2007年にカナダのハイスクールで始まった「いじめ反対」の意思を示す運動です。現在では180を超える国や地域で実施されています。

中央小学校では、「よさみつけカードづくり」を行っています。仲間の努力している姿や仲間を紹介したい素敵な行動をカードに書いて本人に渡します。カードを受け取ってメッセージを読んだときには、笑顔が生まれ、自尊感情の高まりにつながっています。さらに、そのカードは廊下に掲示され、他の学級のこどもたちも、そのよさに触れられるようになっています。掲示を見て「〇〇さんのこういう姿をまねしたい」という声が生まれています。互いを認め合う姿が学校全体に広がる活動です。

#### 自分にはよいところがある よさみつけカード(中央小)



#### お知らせ(令和7年度教育委員会表彰式)



11月19日に令和7年度教育委員会表彰式が市役所で開催されました。

表彰式では、市の教育・学術・文化・スポーツの振興・発展のため多大な功績を築いた方々を称え、感謝状や表彰状の授与を行いました。

今年度は29名の方が受賞され、表彰式には24名の方が参加されました。



羽島市教育委員会事務局 教育政策課

〒501-6292 羽島市竹鼻町 55 番地

TEL (058) 393-4611 FAX (058) 391-0906

Email : kyoiku@city.hashima.lg.jp